

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	宮崎大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	ミヤザキダイガク
	大学等名1(代表大学等)学校所在地	九州地方
	大学等名1(代表大学等)学校種別	国立大学
	大学等名2(連携大学等)	
	大学等名2(連携大学等)学校所在地	
	大学等名2(連携大学等)学校種別	
	科目名	海外短期研修
	学部・研究科等名	地域資源創成学部
	担当教職員名・役職	井上果子・准教授
要素①	受講者数(H29年度実績)※インターンシップ参加者数	6
	受入企業等数	5
	受入企業等名	・ニュージーランド・オークランド DynaSpeak・台湾 京都ホテル・台湾 大葉大学日本語教師アシスタントインターン・タイ 泰日工業大学・ベトナム (株)旅武者
	インターンシップの分類	3.海外インターンシップ 6.低学年(大学1年次～2年次程度)からのインターンシップ
	上記以外のインターンシップの分類(記述欄)	
	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事 2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容(記述欄)	
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	本学部は①企業マネジメント、②地域産業創出、③地域創造の3つのコースから構成されており、海外短期研修も①(新しい価値創造に向けて)ゼロから新しいビジネスや活動を企画し、実践していくプログラム、②企業・組織の職業体験プログラム、③(持続可能な地域づくりに向けて)地域を構成する人々の多様な価値観について理解を深め、ともに活動・実践するプログラムの3種類がある。(業界によって体験する内容は異なる。)
	要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。
2-2.該当するインターンシップの内容		3.当該インターンシップは、専門教育科目として実施している 5.当該インターンシップは、選択必修科目として実施している 8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
2-2.「9.その他」で実施しているインターンシップの内容(記述欄)		
2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)		2年次(後期)～3年次(前期)
2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)		2単位
2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)		本学部では、国内インターンシップ(1か月以上)又は海外短期研修(2週間以上)を履修することが卒業要件となっている。本プログラム(海外短期研修)は、そのための選択必修科目と位置づけている。
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法等を身に付ける授業等を行っている 2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている 3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている 4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している 5.その他
	3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容(記述欄)	1年次から段階的に地域理解実習、地域探索実習を実施している他、海外で学習する機会を提供し、海外短期研修での学びがより円滑かつ効果的に行われるように計画している。

要素③	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている 2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている 3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	1.インターンシップ中に、教職員が定期的に企業等に赴き、学生と面談を実施している 3.その他
	3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	学生の主体的かつ責任ある行動を促すため、教員から指示を行わなくとも現地到着後に関係者に報告、連絡、相談することを促す教育を事前に行っている。また、現地監督者から評価を得るようにしている。なお、1.については、受け入れ先全てではなく一部の受入先が該当。）
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	学生が主体的に海外研修の行先や内容を決定するため、渡航先を決めるまでの綿密な事前準備、手続き、安全に海外で活動を行うため、学部が行う事前研修(海外研修時の約束事の確認、日報・報告書の作成方法指導、目標設定等、安全確認を含む)に必ず参加することとしている。また、現地でのリスク管理のために現地で使用可能な携帯電話の準備、緊急連絡網の確認、万一に備えてスカイプで常に担当教員とつながる設定を事前に行った。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	活動報告のため、①日報及び②活動報告書ならびに③現地滞在中の活動を監督する立場にある人物からの評価票を帰国後2週間以内に学部へ提出することとしており、成果発表会において一人15分程度の成果発表を行うこととしている。
要素④	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	学生自ら現地到着後に関係者に報告、連絡、相談することが実際に遂行できることをモニタリングした。また、一部の受入先によっては、担当教員が期間中に研修先を訪問する、あるいは国内の受入企業等が主催する関連研修に同席した。期間中に訪問できない場合には、スカイプによる学生からの相談受付、フォローを行うことで、リスク管理及び教育の質の確保に努めた。その他、帰国後、学生から受け入れ先への礼状送付を奨励している。
	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている 4.その他
	4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	TOEICの受験を毎学期義務付け、語学力向上の程度をモニタリングしている。
要素⑤	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	成果発表会を毎学期開催し、その発表会への出席は全学公開としている。特に、(次の学年への刺激ともなるように)下の学年の学生の出席も呼びかけている。
	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	14日間
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.「4.その他」の実施期間の内容(記述欄)	
5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	受け入れ機関によって日数は異なるが、「海外短期研修」プログラムの条件として、2週間程度以上の海外滞在・活動があること、としている。	
6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい	

要素⑥	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してインターンシッププログラムを設計している 3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている 4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している 5.企業等と協働して作成した評価シートを活用し、具体的な効果を数値化して測定している
	6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	評価票を事前に受け入れ機関側に送付し、評価していただいている。また、学生のパフォーマンスに関するコメントもいただくようにしている。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	別途提出済み
問い合わせ先	大学等名	宮崎大学
	担当部署名	学生支援部学生生活支援課
	担当者役職名	キャリア支援係長
	担当者氏名	笹本 美貴子
	電話番号	0985-58-7796
	メールアドレス	syusyoku@of.miyazaki-u.ac.jp